



報道関係者 各位

## IoT 技術とデータ分析による データ駆動型農業の学生プロジェクト始動

滋賀大学の学生たちが、モノとインターネットがつながるIoT技術を活用し、そこから得られるデータを分析して、生産性向上を目指す、データ駆動型農業実験プロジェクトを開始します。またその成果は地域農業へフィードバックしていきます。

このプロジェクトでは、大学構内にいちご、トマトなどを栽培する温室を設置し、収穫量のアップを目指してデータ駆動型農業に取り組みます。収穫量は光合成に左右されるため、光合成の環境要因となる太陽光、二酸化炭素、水分、温度、湿度、養分についてデータを収集、AIを適用してデータを分析し、PPDAC（問題・計画・データ収集・分析・結論）サイクルを回します。

また、データ収集を行うために、環境要因を測定するセンサーなどの電子部品やモーター、ポンプなどの機械部品をインターネットにつなげ、それらを制御するプログラミングスキル、ネットワーク技術を学びます。

このプロジェクトで得た知見は、Society5.0で進められるデータ駆動型農業の地域実装のために地域農業へフィードバックしていきます。

### <データ駆動型農業実験プロジェクト 開墾開始>

日時	4月20日（火）	14:30～
場所	滋賀大学彦根キャンパス	農地（構内バス停横）
参加者	学生、教員	
アドバイザー	（株）ベースワン（米原）	社長 山室義治
	（株）浅小井農園（近江八幡）	会長 松村務
協賛	佐藤工業（株）	（東京）